

# 「コンクリート工学年次論文集」Vol.29

## 和文論文・報告執筆要領

(社)日本コンクリート工学協会

### 1. 本執筆要領の対象

コンクリート工学年次論文集に投稿申込みを行った和文による論文・報告は、本執筆要領にしたがって執筆・提出されなければならない。

### 2. 著作権

掲載された「論文」・「報告」の著作権の行使のうち、複写・転載の許諾に関する権利については日本コンクリート工学協会に委任するものとする。

### 3. 論文と報告の区分

- (1) 「論文」とは、コンクリート工学に関する最近の研究成果について、目的、方法、結果、考察、結論等が明示されており、それだけで完結しているものをいう。学術的または技術的に価値があり、原則として未発表のものに限る。
- (2) 「報告」とは、技術的価値の高い工事報告、資料として有用性の高い調査報告、さらには、設計、施工、構造および材料等に関する最新の技術開発の成果報告をいう。原則として未発表のものに限る。

### 4. 原稿の体裁

原稿の形式は、パソコンの文書作成ソフトで作成した A4 版 (21 字×40 行×2 段) 6 枚に図・表・写真が適切にレイアウトされた電子ファイルを、Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、全てのフォントの埋め込みをして変換した PDF (Portable Document Format) ファイルとする。

Acrobat PDF Writer は、フォント埋め込み等の細かい設定が出来ないため、使用を禁止する。

PDF ファイルの容量は、1.2 メガバイト以下とし、これに収まるように原稿を作成すること。なお、原稿には、大幅な余白を残してはならない。

CD-ROM 版論文集は、PDF ファイルをそのまま (A4 版で) 収録する。冊子版論文集は、PDF ファイルを白黒印刷したものを版下原稿として B5 版に印刷する。

### 5. 題目と著者名

原稿提出後の題目および著者名の変更は認めない。

### 6. 論文・報告の内容

- (1) 研究の目的を「はじめに」等を書き、得られた主な成果を「結論」あるいは「まとめ」等を書くこと。
- (2) 「論文」については、本執筆要領を満足したもので、主として下記の項目のいずれかに該当するかどうかに重点をおいて、コンクリート工学年次論文査読委員会が審査を行い、採否を決定する。

- (a) 研究の対象に新規性があり、今後の発展性がある。
- (b) 研究の手法に独創性があり、今後の発展性がある。
- (c) 現象の解明に貢献している。
- (d) 新しい成果が盛られている。
- (e) 内容に総合性、普遍性があり、かつ工学上有用である。
- (f) 計画、調査、設計、施工などに取り入れる価値がある。

「報告」については、本執筆要領を満足したもので、主として上記の(c), (d), (e), (f)および下記の項目のいずれかに該当するかどうか重点をおいて、コンクリート工学年次論文査読委員会が審査を行い、採否を決定する。

- (g) 技術的検討結果に新規性があり、今後の発展性がある。
- (h) 困難な技術的問題を克服したプロセスおよび結果が報告されている。

「論文」「報告」ともに不相当と認められるものには、次のようなものがある。

- (a) 「論文」「報告」の執筆要領が守られていないもの。
- (b) 上記の「論文」あるいは「報告」の項目のいずれかに該当しないもの。
- (c) 同一もしくは類似の研究発表が行われているもの。(ただし、既発表の研究内容を前進させたものは、この限りでない) ([参考資料] 未発表・既発表に関する基礎的考え方を参照のこと。)
- (d) 最終提出する修正原稿において、審査段階の「論文」「報告」から、コンクリート工学年次論文査読委員会から指摘された事項以外の大幅な変更が加えられたもの。

- (3) 使用材料・機器等の商品名の記述は、「論文」の場合にはこれを避けて、主成分、使用性能等を表す一般名称によって表現すること。また、「報告」の場合には可能な限りこれを避けて、商業宣伝に偏しないように注意すること。

## 7. 原稿の書式

原稿は、パソコンの文書作成ソフトで、A4 サイズ横書き 21 字×40 行の 2 段組、余白は、上 25mm、下 20mm、左 22mm、右 22mm に指定して作成する。詳細は、原稿書式の例を参照のこと。

本文の字体(フォント)は、表-1 に示すものを使用し、文字の大きさは 10.5 ポイントあるいはそれに最も近いものとする。使用する句読点はカンマ「,」と句点「。」とする。その他の種類の字体(フォント)に関しては、PDF ファイル作成時の「フォント埋め込み」が正常に行えなく、パソコンの機種によって PDF ファイルの文字が正常に表示されない場合があるので、使用しないこと。

本文に使用してはいけない文字を、表-2 (Windows の場合)、表-3 (Macintosh の場合) に示す。これらの文字を使用すると、パソコンの機種によっては、作成した原稿の PDF ファイルの文字が正常に表示されない場合があるので使用しないこと。また、半角カタカナ文字も本文に使用してはならない。

- [注] 原稿提出後、1 ページ目右上に「コンクリート工学年次論文集, Vol.29, No.○, 2007」を、また各ページ下中央にページ数を事務局で一括して書き込むため、提出原稿のヘッダ、フッタ(原稿の上部および下部の余白)にページ数、著者の名前等、一切記載しないこと。





表-4 論文・報告の種別，題目，著者名，所属先，要旨，キーワード等に  
使用する文字の字体（フォント）および大きさ

	字体（フォント）の種類		文字の大きさ
	Windows	Macintosh	
論文・報告の種別	MS ゴシック	中ゴシック，平成角ゴシック，MS ゴシック	14 ポイント
題目	MS ゴシック	中ゴシック，平成角ゴシック，MS ゴシック	14 ポイント
	Arial, Helvetica		
著者名	MS 明朝	細明朝，平成明朝，MS 明朝	10.5 ポイント もしくはそれ に近いサイズ
	Times, Times New Roman, Symbol		
所属先	MS 明朝	細明朝，平成明朝，MS 明朝	
	Times, Times New Roman, Symbol		
要旨*	MS 明朝	細明朝，平成明朝，MS 明朝	
	Times, Times New Roman, Symbol		
キーワード*	MS 明朝	細明朝，平成明朝，MS 明朝	
	Times, Times New Roman, Symbol		

【注】 \*:書き出しの「要旨:」および「キーワード:」の表記は、字体(フォント)を MS ゴシック (Windows, Macintosh) もしくは、中ゴシック，平成角ゴシック (Macintosh) に、文字の大きさは 10.5 ポイントもしくはそれに近いサイズとする。

#### 【記載例】

新井 安雄<sup>\*1</sup>・神田 真<sup>\*2</sup>・佐藤 一<sup>\*3</sup>・田中 直人<sup>\*4</sup>

#### (4) 所属先

所属先については、各著者の右肩に付した\*（アスタリスク）＋数字に対応する脚注とし（上付き文字としない）、「勤務先名 所属部署 肩書 学位 会員表示（括弧書き）」を示すこと。所属先を記載する文字の種類（フォント），文字の大きさ（ポイント），および、使用してはいけない文字は、本文と同じとする（表-2，表-3，表-4 参照）。

\*1 ○○大学大学院 工学研究科○○学専攻 （正会員）

\*2 ○○大学 工学部○○学科助教授 工博 （正会員）

\*3 ○○建設(株) ○○事業本部○○部○○課課長 工修 （正会員）

\*4 ○○省 ○○研究所○○研究部○○研究室主任研究員 Ph.D. （正会員）

【注】 法人種別は(株) (有) (財) (社) 等の省略形とすること。法人の省略形の記載には、記号の(株) および(有) 等は、PDF ファイルでの文字化けの原因になるので使用しないこと（表-2，表-3 参照）。法人名は正式の名称で表示し、JR, NTT, NEXCO 等の“通称”は用いないこと。

#### (5) 要旨

要旨は必ず 1 段組とし、著者名から 1 行あけて、ゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) の「要旨:」に続けて記載する。要旨の文字の種類（フォント），文字の大きさ（ポイント），および、使用してはいけない文字は、本文と同じとする（表-2，表-3，表-4 参照）。このとき、左右両端を 2 文字ずつあげる。要旨の長さは、4 行から 7 行まで（150 字から 270 字程度）とする。

## (6) キーワード

キーワードは必ず1段組とし、要旨のすぐ下に、ゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) の「キーワード:」に続けて記載する。キーワードの文字の種類 (フォント)、文字の大きさ (ポイント)、および、使用してはいけない文字は、本文と同じとする (表-2, 表-3, 表-4 参照)。キーワードは、1行以内に収まる語数をカンマ ( , ) で区切る。

## 9. 本文の書式

本文は、キーワードのあとに1行あけて記載すること。本文の文字の字体 (フォント)、大きさは、**7. 原稿の書式**および表-1を参照のこと。また、表-2および表-3に示した文字は、本文に使用してはならない。本文は必ず2段組とし、下記の[例]のように章, 節の見出しは左端から書き出し, 項の見出しは左端から1文字空けて書き出す。また、番号のあとに半角スペースを空けて記載し、それだけで1行とること。なお、章, 節, 項の見出しは, ゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) もしくは, Arial・Helvetica (Windows, Macintosh) とし, 数字は半角とし, 文字の大きさは10.5ポイントもしくはそれに近いものとする。見出しに使用してはいけない文字は、本文と同じとする (表-2, 表-3 参照)。また、各章の見出しの上側は1行あけること。節・項の見出しの上側はあけない。なお、文の区切りにはカンマ「,」を, 文末には句点「。」を使用すること。

[例] (章) 1. ○○○○○○  
(節) 1.1 ○○○○○○  
(項) (1) ○○○○○○

## 10. 数式

極力簡潔にまとめ、式は3字あけてから書き出す。式の番号は半角にて(1), (2), (3)と表示し、式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は、式(1), 式(2)とする。数式に使用してはいけない文字は、本文と同じとする (表-2, 表-3 参照)。また、式と式番号との間にはリーダを付けない。

## 11. 単位

SI単位とする。

## 12. 図・表・写真の作成方法

- (1) 図・表・写真は、本文の引用箇所に近いところに配置し、ページの幅一杯にならない図・表・写真は右側に寄せて配置すること。本文との間に1行もしくはそれ以上あけて配置すること。
- (2) 図および写真にカラーを使用するのはかまわない。しかし、冊子の論文集は白黒印刷されるので、薄い色 (例えば, 黄色, 緑色, 水色) や点線を用いると, 白黒印刷では判読できなくなる場合がある。したがって、原稿作成時に白黒印刷をして、図や写真が明確に判読できることを確認すること。
- (3) 原稿に貼り付ける写真の解像度や色数は、原稿のファイルサイズに影響するので、必要最小限の解像度、色数にとどめること。

### 13. 図・表・写真の大きさとタイトル

- (1) 図・表・写真のタイトルは、ゴシック体の和文（図-\* 和文）もしくは太文字の英文（Fig.\* English）で統一すること。文章中の引用においてもゴシック体の和文（図-\* 和文）もしくは太文字の英文（Fig.\* English）で統一すること。タイトルの文字の字体（フォント）および大きさは表-5の通りにすること。なお、タイトルに使用してはいけない文字は、本文と同じとする（表-2, 表-3 参照）。
- (2) 図・表・写真は、本文と区別できるように、番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行ずつあけ、左側に本文が入る場合には、本文から各行2文字分あけること。
- (3) 図・写真の番号・タイトルは図・写真（位置）の下に、表の番号・タイトルは表の上に記入すること。
- (4) 図・表・写真に使用する文字の字体、大きさを表-5 に示す。使用してはいけない文字は本文と同じとする（表-2, 表-3 参照）。冊子版の論文集は、A4 版の PDF ファイルを B5 版に縮小して印刷するので、図-1 および表-6 に示すように、図・表中の線の太さに留意すること。図・表・写真中の文字の大きさは、本文と同じ程度が望ましい。
- (5) 内容上どうしても同一ページに載せる必要がある場合を除き、複数の図表のみのページを作ることのないよう、割付に配慮すること。

表-5 図・表・写真に使用する文字のフォントおよび大きさ

		字体（フォント）の種類		文字の大きさ
		Windows	Macintosh	
タイトル	和文表記	MS ゴシック	中ゴシック, 平成角ゴシック, MS ゴシック	10.5 ポイントもしくはそれに近い大きさ
	英文表記	Arial, Helvetica		
		Times もしくは, Times New Roman の強調字体(bold)		
図・表・写真の文字		MS 明朝, MS ゴシック	細明朝, 中ゴシック, 平成明朝, 平成角ゴシック, MS 明朝, MS ゴシック	本文と同一が望ましい
		Times, Times New Roman, Arial, Helvetica, Symbol		

表-6 表の例

粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメント比 (%)	空気量 (%)	細骨材率 (%)	単位量(kg/m <sup>3</sup> )				
					水 <i>W</i>	セメント <i>C</i>	細骨材 <i>S</i>	粗骨材 <i>G</i>	混和剤 <i>A</i>
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

(表の罫線の太さは 0.5pt 以上とする)

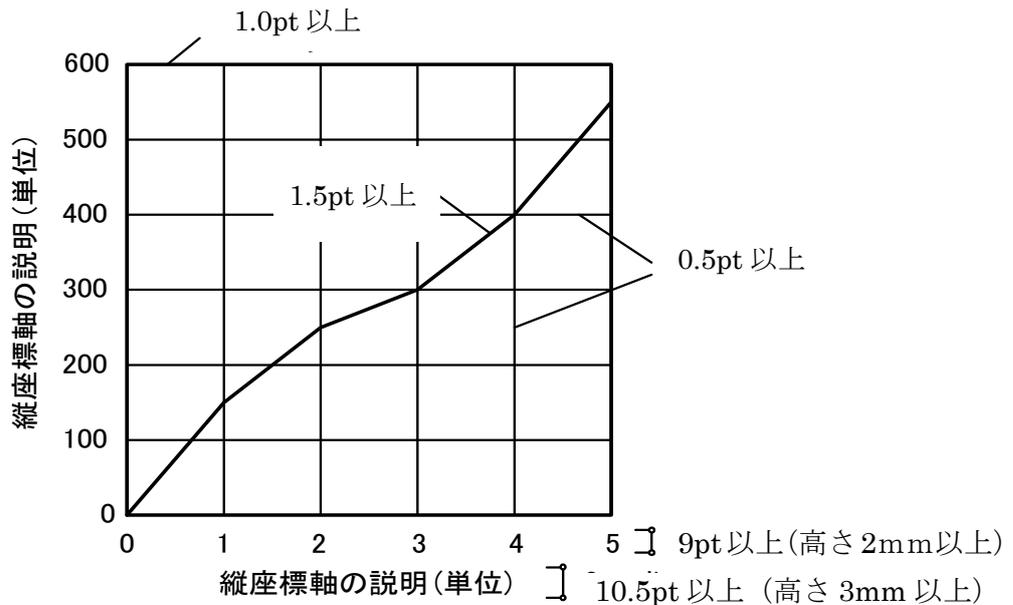


図-1 図の良い例と作図参考寸法

#### 14. 参考文献

- (1) 参考文献は、投稿時に既発表のものに限る。
- (2) 引用したり、参考とした文献名は、使用順に 1), 2)のように番号をふり、「結論」あるいは、「まとめ」のあとにゴシック体（MS ゴシック（Windows, Macintosh），中ゴシック・平成角ゴシック（Macintosh））の「参考文献」と表示（文字の大きさは10.5ポイント）したあと、まとめて掲げること（必ず2段組とすること）。
- (3) 文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に、上付数字で<sup>1),2),3)...</sup>のように明記しておくこと。
- (4) 記載方法
  - a) 論文等の場合  
著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。
  - b) 単行本の場合  
著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年の順とする。
  - c) 和文原稿の著者名は必ずフルネームで記す。もし，連名者が多い場合には，筆頭著者以外を「ほか」として省略してもよい。
  - d) 欧文文献の著者名は，姓を先に記し，名はカンマのあとにイニシャルで示す。また，連名者が多い場合には，et al.として省略してよい。
  - e) 発行年月  
和文原稿の場合，西暦に統一して，1988.11,1991.2 のように記す。欧文文献では，Nov. 1988, Feb. 1991 のように記す。
- (5) 文字の大きさは10.5ポイントとし，字体（フォント）および使用してはいけない文字は，本文と同じとする（7. 原稿の書式および表-1，表-3，表-4 参照）。

## [記載例]

### 参考文献

- 1) 小林一輔, 魚本健人, 嶋 文雄: コンクリート混和剤としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響, コンクリート工学, Vol.17, No. 5, pp.87-95, 1979.5
- 2) 森田司郎ほか: RC 外部柱・梁接合部の耐力と変形性状, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.19, No.2, pp.175-180, 1987.6
- 3) 岡田 清, 六車 熙編: コンクリート工学ハンドブック, 朝倉書店, 1981
- 4) Malhotra, V.M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12, pp.28-31, Dec. 1986
- 5) Collins, M. P. and Mitchell, D. : Shear and Torsion Design of Prestressed and Non-Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct. 1980
- 6) コンクリート工学年次大会投稿画面 FAQ 参照:  
<http://www.jci-net.jp/rally/2006/denshi/index.htm>

文字の大きさは  
10.5 ポイント

## 15. PDF ファイルの作成および注意事項

Acrobat Distiller または Adobe PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、全てのフォントの埋め込みをして変換した PDF ファイルとする。変換方法の詳細については、ホームページの PDF 作成方法 (「電子投稿のページ (<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>)」の「FAQ」に掲載) を参照のこと。以下に、PDF ファイル作成時の注意事項を記載する。

### (1) フォントの埋め込み

Acrobat Distiller または Adobe PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、全てのフォントの埋め込みをして変換した PDF ファイルとする。

### (2) Acrobat PDF Writer の使用禁止

Acrobat PDF Writer は、フォント埋め込み等の細かい設定が出来ないため、使用を禁止する。

### (3) PDF ファイルの容量

PDF ファイルの容量は、1.2 メガバイト以下とし、これを超えたものは受け付けない。PDF ファイルが 1.2 メガバイトを超えた場合の対策としては、

- a) PDF ファイルへの変換時の「カラービットマップ」もしくは「グレースケールビットマップ」の解像度 (デフォルトは、72dpi) の設定を小さくする。詳細はホームページの PDF 作成方法 (「電子投稿のページ (<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>)」の「FAQ」に掲載) を参照のこと。
- b) 原稿に貼り込んだ写真の解像度および色数を小さくする。写真を白黒にする。(写真を原稿に貼り込んだ後に縮小しない)

#### (4) 禁止する設定

- a) PDF ファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定をしないこと。設定の確認方法および解除のしかたは、ホームページの PDF 作成方法（「電子投稿のページ（<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>）」の「FAQ」に掲載）を参照のこと。
- b) PDF ファイルの「開き方の設定」を、初期表示は「ページのみ」を選択し、「しおりとページ」および「サムネールとページ」は選択しないこと。また、「ウインドウオプション」および「ユーザーインタフェースオプション」の項目はいずれもチェックしないこと。設定の確認方法および解除のしかたは、ホームページの PDF 作成方法（「電子投稿のページ（<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>）」の「FAQ」に掲載）を参照のこと。

#### (5) PDF 変換後の必須確認事項

- a) PDF ファイル変換後、全てのフォントが埋め込みされていることを必ず確認すること。 確認方法の詳細については、ホームページの PDF 作成方法（「電子投稿のページ（<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>）」の「FAQ」に掲載）を参照のこと。
- b) 図および写真は、カラーを使用するのはかまわない。しかし、冊子の論文集は白黒印刷されるので、原稿作成時に白黒印刷をして内容が理解できることを確認すること。 なお、CD-ROM の論文集は、最終原稿提出時の PDF ファイルがそのまま掲載される。
- c) PDF ファイルへの変換後に印刷して、原稿のイメージがワードプロセッサで作成したものと変わっていないかを必ず確認すること。特に、PDF ファイルへ変換後にページ数が 7 ページ以上に増えている場合があるので、よく確認すること。

### 16. 審査用原稿の締切りおよび提出方法

審査用原稿は、2006 年 12 月 20 日（水）10:00 より 2007 年 1 月 24 日（水）17:00 までの期間に、下記アドレスのホームページにて PDF ファイルの形式で提出する。締切りの前日および当日は、原稿受付システムが混雑し、投稿に時間がかかることが予想されますので、早めに提出することを推奨します。なお、これに遅れた場合は、原稿を受けけないので、期限を厳守すること。提出方法の詳細についてはホームページを参照のこと。

<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>

- [注]
- (1) 原稿提出前に、原稿チェックシートで原稿の体裁を確認すること。
  - (2) 提出原稿の PDF ファイルは、圧縮処理をしたファイル等で送付しないこと。
  - (3) ホームページの原稿受付システムで原稿を送付する際に、CD-ROM 論文集内の検索データベース作成のため、提出原稿の要旨およびキーワードをホームページ上に入力する必要があります。

### 17. 修正原稿の締切りおよび提出方法

審査結果が「採用」の場合の最終原稿および、「条件付き採用」の場合の修正原稿は、2007 年 3 月 22 日（木）10:00 より 2007 年 4 月 10 日（火）17:00 までの期間に、下記アドレスのホームページにて PDF ファイルの形式で提出する。締切りの前日および当日は、原稿受付システムが混雑し、投稿に時間がかかることが予想されます。早めに提出することを推奨します。なお、これに遅れた場合は、原稿を

受け付けないので、期限を厳守すること。提出方法の詳細については下記アドレスのホームページを参照のこと。

<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>

[注](1) 原稿提出前に、原稿チェックシートで原稿の体裁を確認すること。

- (2) Acrobat Distiller または Adobe PDF を使用し、全てのフォントが埋込みなされているか、PDF ファイルを確認すること。
- (3) 提出原稿の PDF 形式のファイルは、圧縮処理をしたファイル等で送付しないこと。
- (4) 最終提出する修正原稿において、審査段階の「論文」「報告」から、コンクリート工学年次論文査読委員会から指摘された事項以外の大幅な変更が加えられた場合は、不採用となることがあるので注意すること。
- (5) 修正原稿の要旨およびキーワードを、審査原稿のものから変更した場合は、ホームページの原稿受付システムで原稿を送付する際に、提出原稿の要旨およびキーワードをホームページ上に入力する必要がある。

## 18. 注意事項

- (1) 筆頭著者の連絡先・所属（住所、電話番号を含む）、連名者の所属が変更になった場合は、速やかにホームページの変更受付ページで申込み内容の変更を行うこと。著者に必要な情報が届かず、講演できないこともある。（随時受付）
- (2) 採用された論文・報告は、第 29 回コンクリート工学講演会で発表すること。また、大会参加費を納入すること。
- (3) 講演会での発表者は、急病等の特別の場合を除き、筆頭著者に限定する。
- (4) 原稿作成に関し、不明な点は下記ホームページの FAQ を参照のこと。

<http://www.jci-net.jp/rally/2007/denshi/index.htm>

- (5) FAQ を見ても不明な点、および、執筆要領に関する問合せ先：  
（社）日本コンクリート工学協会・学術課「年次大会係」  
担当：戸口  
FAX：(03)3263-2115  
E-mail: [jcinenji@jci-net.or.jp](mailto:jcinenji@jci-net.or.jp)

以 上